場所　〒502-0812　岐阜市八代3丁目27-8「ふれあいスペース」

第140号
2020年3月

わいわい、がやがや、みんなで哲学

哲学カフェ de ぎふ
千秋（せんしゅう）まちかど文庫　通信

運営委員会発行（記録：安藤彰浩、編集：中川健史）（主宰：吉田千秋 090-7917-9602　yoshida0@sepia.ocn.ne.jp

第1408回哲学カフェ例会（2020.2.13）

《100兆円を越える国家予算。収支とも大問題では？》

今回の例会で分かったのは、すべての国民が納めているのに、それがどう使われているかにもっと関心を持つ必要があることです。国民が主権者であるという実質もこれを抜きにしてはないでしょう。

問題提起・吉田千秋

＊冬らしい日が数日続きました。街頭の宣伝活動では手がかじかんで寒さが身に堪えました。珍しく寒かったのでその様に感じただけで、温暖化の影響に疑いの余地はありません。今後世界はどうなってしまうのでしょう。

＊さて、私たちは当たり前の様に税金を払っています。でも、なぜ、国家が税金を取り立てるのか考えたことがありますか。多くの人は、漠然と国は国民のために何かをしてくれると期待しています。だから仕方がないと思っても、税金を納めること自体を疑問に思うことがないのでしょう。外国の人々は日本人ほど従順に何でも受け入れたりしないで、もっとシビアに考えます。カリフォルニアでは、軍事予算の一部に納得できないと異議を申し立てて、税金の一部支払いを拒否して裁判となる事件がありました。

＊日本人も税金を払う以上、納められたお金が政府によって、どう使われるのかもっとしっかり考える必要があると思います。赤ちゃんの飲むミルクにも消費税がかかっていています。例外なく国民の誰もが税を負担しています。国民一人ひとりがただ漠然と払うのではなく、内容をしっかり理解して主権者の役割を果たす必要があります。

＊まず補正予算に注意を向けなければなりません。今年度の予算案の前に、2月2日に2019年の補正予算が国会であっさり可決されましたが、世の注目を集めることがありませんでした。補正予算で目立っていることは、兵器購入のための防衛費の計上です。補正予算は元来緊急対策のための予算です。自然災害（人間の営みが原因となっているものも少なくない）の対する対策とか、米中の貿易摩擦による景気の落ち込みに対する対策とか、予想できなかった事態に対応するために組まれるものです。それに対して防衛費はしっかりした計画に基づいて当初予算で計上すべきものです。後から国民の関心の薄い補正予算で兵器を買って、当初予算の防衛費の増大を出来るだけ低く抑えている様に見せる意図がはっきりしています。今後補正予算に注意を向ける必要があります。

＊今年度の予算案で最初の注目すべきことは、歳入の税収入で消費税が最大となることです。消費税が順次引き上げられて来ました。それに対して、所得税や法人税は一貫して引き下げられて来ました。かつて最高税率75%だった所得税は現在45%に引き下げられています。全体で59%程だった法人税（法人の所得に掛けられる税の合計＜法人実効税率＝国税＋地方税＞）も現在約29%と大幅に引き下げられています。計算上、国の法人税収入は、この間、総額で298兆円、所得税収入は260兆円程、合わせて560兆円程減少したことになります。税収の内訳の推移を見れば、1989年に導入された消費税が、富者や大きな利益をあげる企業に対する税負担の軽減による税収の落ち込みを補う形で、段階的に引き上げられた形になります。

＊消費税は福祉の充実のために引き上げられることになっていましたが、実際にはそのようなことになっていません。国が慢性的な財政赤字に苦しむ一方で、大企業は内部留保を増やしていて、その総額は日本のGDPに迫る500兆円程になると言われています。税制度の変化からはっきりしていることは、金持ちがますます金持ちにな

る政治が行われているということです。ユニクロの社長を頂点に、日本にも億万長者が沢山います。その他、富裕者に対する優遇措置の例として、現財務大臣の麻生氏が首相時代におこなった、キャピタルゲイン（株式や債券の売買で得られる収入）に掛かる税の引き下げを上げることができます。安倍首相の強固な支持者となっているのは、上述の様な形で安倍政権の政治から恩恵を受けた人たちです。

＊歳出は増加して100兆円を越える規模となっています。歳出で最も大きな部分を占める社会保障費も防衛費と共に増加しています。しかし社会保障費は元来人口の高齢化によって自然に増加するものです。政府が社会保障費の自然増を様々な分野のサービス削減によって可能な限り抑える様にしていることを見逃さないようにしなければなりません。これまで75歳以上の後期高齢者の医療費の負担は1割となっていましたが、これが新年度から2割に引き上げられることになります。老人は健康に生活していても、しばしばどこかが悪くなって、医者に行かざるを得ません。この引き上げが高齢者の生活を圧迫することは明らかで、弱者に負担を強いる改正です。それに対して、幼児教育の無料化や、大学の奨学金の増額は、しっかりした計画を欠いた予算の「バラマキ」でしかありません。消費増税によって4兆円の税収増が見込まれていますが、消費意欲の低下による景気の落ち込みを抑える対策に、大きな予算が組まれていることをどう理解すればいいのでしょう。

＊防衛費は当初予算で5.3兆円ですが、必ず補正予算の追加支出があることを考慮しなければなりません。中味もかなり問題です。歳出が歳入を大きく上回って、赤字国債を大量に発行したりして、不足分を補わねばならないことがはっきりしているのに、差し迫った必要があるとは思えない高額の兵器の購入はしっかり予算に組み込まれています。さらに問題なのは、米国から一機100億円の高額な攻撃的な戦闘機F35を後から納入される分まで先払いで購入したり、迎撃ミサイルシステム、イージス・アショアに関しては、配備の予定された山口県では県の承認が得られていなかったり、当初秋田県となっていた配備予定が見直しされそうであるにもかかわらず、発射装置の購入及び整備費が予算に計上されていることです。

＊歳入の見積もりが経済成長を高めに設定して行われていることも問題です。赤字国債の利子の支払い分が大きくなって、予算を大きく圧迫しています。政府は国内の銀行を通じて、国民に購入させることができる限り、ギリシャの様に国が財政破綻することはないから、問題はないとしています。確実とは言えない年金資金の運用益も当て込んでいます。これまでで借金でやりくりできたから、これからもできるという危うい論法です。安倍政権のやって来たことは、生活弱者が著しく増加して、大企業や富裕層が得をする政治です。政治を根本から改めることが必要です。私たちは先ず私たちの納める税金がどのように使われているのかしっかり理解しなければならないでしょう。今日は税金の使い道について率直に意見交換ができればよいと思います。

意見交流

＊内田樹氏は関係妄想が必要であると言っている。彼によれば「主権者」意識というのは「たとえ自分ひとりでも真っ当に生きないと、この国は衰微するかもしれない」という一種の「関係妄想」のことである。この妄想を持つ人は、現実の利益しか考えないリアリストよりも、自分のしようとすることは国のためになると信じることができて、本当に国を変える能力を持つ。だからそういう人は「主権者」と呼ばれる。

＊税がどこから集められ、どのように使われるかを理解することが国のあり方を理解するであるだろう。非常に大切なことだが、我々の多くはそれを十分理解していなく、主権者の務めを果たしていない。

＊「上級市民」しか主権を持っていない。政治に影響を与えることができない「一般市民」を主権者と呼ぶことはできない。

＊防衛費は安倍政権下で急増していて、5兆円を超える様になった。数字を見るとはっきりしている。ローンを組んで軍事費を賄っている様に思える。

＊安倍第一次政権時代に、ステレス戦闘機を買うことを決めた。ステレス戦闘機にはTDKの開発した技術が使われている。しかし結局アメリカの儲け話になっている。

＊ギリシャの財政破綻はアテネにおけるオリンピックの開催と関連しているといわれている。

＊国の形は税金の使い方で分かるということだが、今の様な税金の使い方になぜ国民が納得しているのか理解できない。

＊防衛費はアメリカとの関係が絡んでいる。兵器は通常商社を通じて買う。日本の企業も一緒に儲けている。憲法は国家が特定の宗教を支援することを禁じているが、米軍絡みの件では特例が認められるのか。米軍基地内に思いやり予算で教会施設が作られている。米国独立以前、

植民地の人々はイギリス本国の議会に代表を送ることができないのに、税金を払わされることに不満を持って、本国からの独立を決めた。税金を払う者は政治に意見を反映させる様にする権利を持つことをしっかり自覚しなければならない。退職して確定申告をするようになって、税を納めることの大変さを実感するようになった。

＊産業の軍事化が進んでいて、日本の企業は防衛予算で儲ける仕組みが出来ている。

＊イージスアショアの配備は本当に日本の防衛のためか。装備の管理などは米軍に任されることになっていて、米国の必要のために導入されるのではないか。

＊IMFは日本の国家財政を破綻させないために、消費税を15%ないし20%に引き上げる必要があると言っている。日本の財務省から出向している者がそういうことを言わせているのではないか。

＊日銀総裁は借金を返すために借金をしても国はつぶれないと言っている。

＊消費税は嬉しいものではないが、財政規律を守るために避けられないものだと思う。

＊人々の生活が良くなることを期待していたが、好転の兆しは見られない。働いている若者が仕事の後、夜外に遊びに出ることはほとんど無い。多くの老人は年金だけで生活できないで、働きにでている。あるお金が有効に使われていない様に思えるが、なぜか大半の人々は無関心である。

＊小泉首相はかつて自民党をぶっ壊すと言って、反対を押し切って郵政民営化を進めた。民主党は「コンクリートから人へ」と言って政権を取って、公共事業を減らそうとして失敗した。安倍首相は憲法改正を実現するために、赤字国債を大量に発行してお金をばらまいて国民の機嫌を取っている。財政破綻しても、国は無くならない。でもそういう考えでは困る。国民が変わらないと国は変わらない。

＊トヨタを始め日本の大企業の多くは米国など海外で事業を展開していて、日本国内よりも北米などで大きな利益を上げている。元トヨタの会長奥田氏は経団連の会長を務めていた際、ほぼ米国の考えに沿った改革を日本政府に要求していた。米国の資本と日本の資本の一体化はかなり進んでいる。自民党はその成立の事情からいっても、明らかに財界の支持を基盤とする政党である。自民党が大企業の潤うことを第一に考える政党であることははっきりしている。防衛費の増加は防衛産業を儲けさせるという側面を持っている。

＊かつて政治を規制するいくつかのルールがあった。最近ルールが無視されるようになっている。長い間、政府自らが防衛費はGDPの1%以下に抑えるという自己規制を維持して来た。この自己規制は近年、守られなくなっている。

＊国民から徴収した税金が、人間が人間らしく生活することができるような社会を作るために使われることを希望する。働く者が自分の心や体を再生産する仕組みがなくなってしまった。

＊国民のための財政であって欲しい。漢字研究の権威白川博士によれば、かつてGHQは使用される漢字の数の制限を求めたらしい。漢字使用の制限の是非はともかく、政府の行動を見る限り日本はほぼ米国の属国の様に振る舞っている。防衛、安全保障において、日本が主権を持っているとは言えない。

＊政治は考えられない状態にある。世界は数々の困難な問題に直面している。不祥事が多過ぎる。首相を始め多くの政治家は権力を私物化して子どもの様に振る舞っている。

＊少子高齢化における人口減少や、それに伴う社会保障費の増大の問題を考えると、国民の自己負担の増加は避けられない。

＊お金は有る所には有る。日本人はお金を貯めることを美徳と考えているが、資本主義経済の仕組みを考えた場合、ただ貯め込んで消費に使われないことは、景気にマイナスの影響しか与えない。以前は、銀行に預けられたお金は投資に回っていたが、国内の消費が冷え込んでいて、需要が見込めないため、預けられたお金は国内で使われることはない。150兆円とも200兆円とも言われる年金資金があるが、ほとんど眠って死んだお金になっている。年金支給額を大幅に増やして、年金生活者に使って貰った方が消費が伸びて好い。これほど沢山年金を貯め込んだ国は世界に例がなく、馬鹿げている。

＊格差を拡大させるような政治では困る。MMT（現代貨幣理論）は財政赤字そのものに問題がある訳ではないと言うが、最終的に税金を上げるという形で終わるのでは受け入れられない。

意見交流の最後に・吉田千秋

＊まず何より、リアルな生活の現場から出発して考える必要があります。日本人は他国の人たちに比べ稼いだお金を使わないで蓄える傾向があります。なぜそうなるのか。一般庶民に関して言えば、この答えは簡単です。病気や老後のことや子どもの進学のことなど、生活の心配が沢山あって、将来が不安だからです。政治が人々を生活の不安から解放してあげられない現実があるということです。富裕層は確かにあり余るほどお金を持っています。それに対して蓄えたくても蓄える金の無い人が大勢います。一番大きな問題はこうした格差が拡大する政治が行われていることです。政府は一方でお金を沢山持っている人たちの税負担を軽くして、他方では消費増税で持っていない人たちに負担を求めたり、また財政赤字の抑制と称して、弱者が恩恵を受ける福祉サービスを削減したりしています。庶民は政府が信用できないから、自分で自分を助けるしかありません。

＊政治そのものがかなり劣化しています。与党議員の収賄事件や公的な文書の杜撰（ずさん）な管理や改ざんなど、不正腐敗が日常化してしまっています。野党議員から委員会審議の場で「魚は頭から腐る」云々の発言がありました。野党議員は事件や疑惑を追及しますが、首相を始め与党側はまともに答えようとしていません。かつて、大量破壊兵器の存在という偽りの口実で始められたイラク戦争の評価を廻ってイギリス議会で激しい議論がなされました。イラク攻撃に参加を決めたブレア元首相は、大量破壊兵器の存在が虚偽だったことが明らかになって、イギリス議会で厳しい追及を受けました。ブレア氏は厳しく批判されながら丁寧に説明責任を果たそうとしていました。その姿と対照的なのが、安倍首相を始めとする与党政治家の対応です。日本の政治は本当に嘆かわしい状況にあります。

＊首相を始め政府閣僚は国民にしっかり説明する責任があります。メディアも政治を監視する役割を十分果たしているとは言えません。メディアはもっとはっきり、問題を看過せずにしっかり取り上げて、国民に注視する様に訴えることができるはずです。一体誰のための政治なのか。きちんと国民のために政治が行われているのか。リアルな現実の生活の場から、遠く離れたところで政治が行われてしまっています。

＊私たちは生活の現場で感じたり考えたりしていることを発言する場所を必要としています。そうした機会を提供することにこの「哲学カフェ」の存在意義があるようの思われます。専門用語を使って難しい話をする必要はありません。問題が何かを本当に分かっている人は、分かり易い話ができるものです。他人の意見に耳を傾けることが大切です。自分は何でも知っていると思うのは間違いです。他人の意見を聞くことから新しい多くのことを学ぶことができると思われます。

今後もいろいろと意見を出し合い、学びあって歩んでいきましょう。

参加者の感想

○千秋さん　昨夜の例会は率直に楽しかったです。前回の私の意を汲んでいただいたのでしょうか。司会者の進行により焦点が明確になり、みなさんの発言を理解しながら、気づがあり、考えることができました。

お金の使い方で、その人の大切にしていること価値観がわかるよね、と友人に話たばかり。国家予算も同じことですね。私は国家予算に無関心であることにきづきました。なぜ、無関心か？　自分と周りしか考えてない、個。日本の国民という意識が全くないことに気づきました。なぜ、国民意識がないのでしょう？

私のような人かきっと多いのではないかとおもいます。問題ですね。

世の中を良くしようと活動している人が多いと思います。しかし、経済力、支配力を求める欲望、その欲望の力が巨大なこと、大企業と金持ちが牛耳る世界であることにショックを受けました。ありがとうございました。

（ひとみ）

○税金について、良く知ることができました。いつもにも増して、良い議論が交わされたと思いました。　（E）

○「鯛は頭から腐る」との国会議員の質問に、ヤジを飛ばした安倍総理。前代未聞と野党から罷免要求。そんなことより、庶民のための政治をせよと、声を大にして叫ぶしかないのか‥。　（安永）

○赤字国債の発言はあったが建設国債の発言がなかった。国債で問題になのは建設国債です。民間では不動産を時々負動産として特集記事や報道がされたりします。建設国債で社会資産が増え維持管理の費用も増える。建設国債に維持管理費は含まれない。オリンピック施設も今後相当な維持費が毎年発生する。政府はこのことをふせている。国債の暴落は無いかもしれぬが、国民の実体経済の稼ぎが少なくなれば世界の中で相対価値が下がる。生活が苦しくなる者が増加することは予見できる。国に借りのある者（貧困層）と国に貸しのある者（富裕層）の階層間で生活差が良く見えるようになるかもしれぬ。国債という借金は返済者各国民が借りる意思表示をした借金ではない。国民の代理者が代理して借りたのだ。法律では、代理者は義務を負わない、 委任した国民が負うことになっている。 自分にできることは、生活に困窮する者達の発生を予見して救済方法を考案することだ。原田正純さんが、水俣水銀中毒患者と出会い、見た者の責任知った者の責任。私は弱者患者側に立ち救済に自分を使う、そのような発言また行為をしていた。　（こうこうぶんわへい）

○自衛隊の装備の価格は企業や公的機関の入札などなく、仲介する商社の言い値（いいね）で買（飼）っています。一例で二百数十人乗る旅客機は百数十億円で燃費がよくなり1万km以上飛ぶものもあります。1人乗るF35は同じ価格で、1500km飛べばよい方で燃料の使い方はまず考えません。自衛隊（軍隊）の予算や金銭感覚は際限ないのです。

しかし、こんなことより目の前のパンや家族しか見えなくなっています。

糧を得る一人前になることは大切ですが、そればかり求められ、真の「主権者、有権者」になることは問われなく、ひたすら「孫、子を困らすな」で経済力を求められています。多少は「立てば歩め、の親心」で見ていきましょう。だが、「GNP1%枠」は守らねば。　（野口）

○今年度の予算に、時の政権の政策が総花的に反映されるのは当前だが、それが長く続いた保守政権を支え続けてきた日米支配層の強い方向付けの結果であることもまた自明ととらえるべきであろう。例えば先進国でも最も危機的な水準となっている財政赤字も、専守防衛を大きく逸脱し9条の枠内のとどまらない安全保障の内容としているのも、戦後の大きな政治支配の構造からきている。それが保育の無償化など一見国民の願いに応えるかに装うものの、既存の高齢者に対する福祉水準の切り下げと連動させたり、老朽原発は全廃が当たり前のところを基準さえクリアさえすればむしろ長期運用を推進するなど、とても国民の暮らしと安全を優先するものにはなっていない。これを変えるのはやはり抜本的な構造部分への改革が不可欠だが、それは国民の社会観・世界観の変革なしには無理だろう。はてさて、それは可能か？

（フィリピン・ウオッチャー）

○毎年、予算案を見るたびに既得権益層、権力側にいいようにされているなという苛立ちを感じます。25パーセント弱の得票率で政権を獲得しているわけですから、マスメディアもグルになった効率的な支配だなと思います。シニカルな気分にしかなりません。しかしこれが日本の現実なのでしょう。　（たなか）

○人間も、野生の世界では強者が優位に立った。時代が進み弱者が、「人間、弱者も平等」の概念を得て保持し救いを求める（仏教、キリスト教、その他）。そして現代の強者、巨大株式会社は、強者の先陣が作り上げ、弱者もその構成員（権利者）として存在している。この仕組みの中で「巨利」を上げている。この仕組みに、それ相応の負担金を払うのは当然の事。だのに、法人税は減税し、消費税の

増税は、消費が減り不況は続き、資本にとっても心地良いしくみが崩壊しかねない。　（アダム・スミス）

○内閣府、財務省、厚労省などが作成した社会保障の将来見通しによれば、医療給付費、介護給付費、年金給付費は2018年に107兆円だったものが、高齢化のピークである2040年には168兆円にまで膨れ上がると予想されている。102兆円の予算規模で、新規発行額が32兆円にもなるほど国債に依存しなくてはならない中で、天井知らずに増え続ける防衛費には、本当に北朝鮮に備えるためには必要なのか、もっとしっかりした議論が必要であると改めて感じた。

一方で、人口減少社会で経済成長が見込めない中で、社会保障費の支出と負担の関係から、近い将来において給付の削減や福祉サービスの低下が避けられないのは、火を見るよりも明らかである。今後ますます、自己負担と老後に備えるための自助努力が求められるものと思われ、高齢者のみならず、若者世代にも極めて厳しい社会となるものと予想される。　（ryosa）

○今回のカフェもおもしろかった。0が幾つつくかわからぬ予算額をめぐって、小さなネズミたちが、でっかいチーズの隅っこを、あっちこっちとかじりあうような意見の展開。私はどこからかじろうかと、よだれをたらしながらうろうろするネズミだった。長老ネズミが「このチーズの本質とは‥」と言う。起動修正できたか不明だが、そのことに気づかれた青年のネズミ君の率直な意見もすてきだった。私にとってこのチーズは、にがいチーズだと改めて思った。哲学カフェって、不思議な魅力がある。乞う、ご参加を。　（尚）

○今回もいろいろ勉強になった。安倍政権になってから軍事予算がぐんぐん膨らんで、右肩上がりに増大していることがわかった。実に腹立たしい限りである。この背景には、米国の圧力があることは明らかである。勤労者のサラリーは据え置きの状況の中で、貧困層も富裕層も「平等に」10％の消費税を課すのは全く「不平等」と言うほかない。国民の血税がアメリカの兵器購入に消費されるのは許せないと強く思う。　（MS）

＜世界一周貧乏旅　その8＞「ハローマイフレンド:前編」

僕はイラン人は良い奴らだと思っていて、現に良い奴らなのでした。

2014年6月、ドバイから飛行機でペルシャ湾を飛び越え、僕はイラン南部の都市シーラーズへ降り立ちました。イランでは長距離バスを乗り継いで4都市をまわり、隣国のアルメニアまで駆け抜けたわけなのですが、旅をした国々の中でも現地の人と関わった数はイランが断トツに多かったです。

イラン人の彼らは旅人に興味津々で、僕が街を歩いていると、アジア人旅行者というのはかなり珍しいようで、そこらじゅうの人から注目の的になりました。そのうちに誰かが僕の前までやってきて、「ハローマイフレンド」と右手を差し出し握手を求められ、「どこの国から来たんだ？」「名前はなんだ？」「どこへ行くんだ？」などと次々に質問されます。それが終わって少し歩けばまた違う人に握手と自己紹介を求められ、そしてまた違う人に…という具合なので、もはや僕の自己紹介の英語力はイラン人たちのおかげで上達したようなものです。

また彼らは旅人の僕にとても親切でした。ある人はバスでたまたま一緒に乗った僕と談笑し、別れ際「任せろ」と初対面の僕のバス代をおごってくれ、ぱちとウインクをして去って行きました。また偶然通りかかったナンの焼き売り店では、唐突に「あげるよ、食べてみな」と焼きたての巨大なナンをくれたりしました。

そしてまた僕が立ち止まっている時には、必ずと言って良いほど「どうした」と誰かが声をかけてくれ、道を教えてくれたり人に聞いてくれたり、時には「いいよ乗ってけ」と、自分のバイクや車で目的地まで送ってくれたりもしました。

昨今、ニュースで目にするイランの話題といえば、アメリカとの問題や核開発、政治に根付いたイスラム教による宗教的非寛容など荒っぽい話題ばかりが目立ち、事実この国はたくさんの問題を抱えています。しかし、それはあくまでメディアが映し出すイランの一面性に過ぎず、「危なそう」と一言で片付けてしまうには、ここはあまりに良い奴らが多い国だと感じます。

少なくとも僕はイランと聞けば、唐突に差し出される右手と、濃い顔面のイランの男たちがにっと笑う顔、そして彼らのお決まりのセリフが思い浮かぶのです。

（→後編へつづく）　（カモノハシタニ）

<びっくりWORLDぎふ No.4(下)

最初の能は翁能、神が老翁の姿であらわれ人々を祝福するもの。その前に小学4年生の男子が露払いを舞う。男の子は初舞台であっても弾むように伸びやかな舞いであった。舞台で翁の面をつけられ、「どうどうたらりたらり、どうどうたらりたらり…」いよいよ翁能のはじまり。いくつかの所作をまじえた舞のあと、この芸能を手厚く保護した領主徳山様の名をあげて舞われ、能の保存にお世話になった方、祭礼に寄進された人の名をあげ舞い祈祷された。三番叟の舞は力強く動きもありよかったな。愛知県の奥三河の花まつり(信州では霜月祭り)でも、舞庭(ﾏｲﾄﾞ)を踏みならす地固めの所作の舞があったことを思い出す。

百姓狂言と2つの狂言は素朴な口調で愉快だった。プロの狂言は張り詰めた緊張感があり、まさに舞台・みせものというふうだ。能郷で演じられる狂言には、きびしい暮らしのなかにも、人々はこのようにユーモラスを楽しむというおおらかな風情を感じた。難波、屋島、羅生門という有名な能、遠く離れた地域でおきたことが、山奥まで伝わり里の力で演じる、その当時の村人たちの文化水準の高さを思う。このようなことは能郷にかぎらず、他の地域でもそうだっただろう。そして能郷の底力は、神事能を毎年奉納してきたということだ。世襲制であったからこそ続けられてきたのだろうし、今は世襲制だったからこそ困難さが増していることもあろうが。奉納能を絶やさないということは、言うに言われぬ重いことと想像する。永えいと続けられてきたその営みに頭が下がる。ありがとうございます。

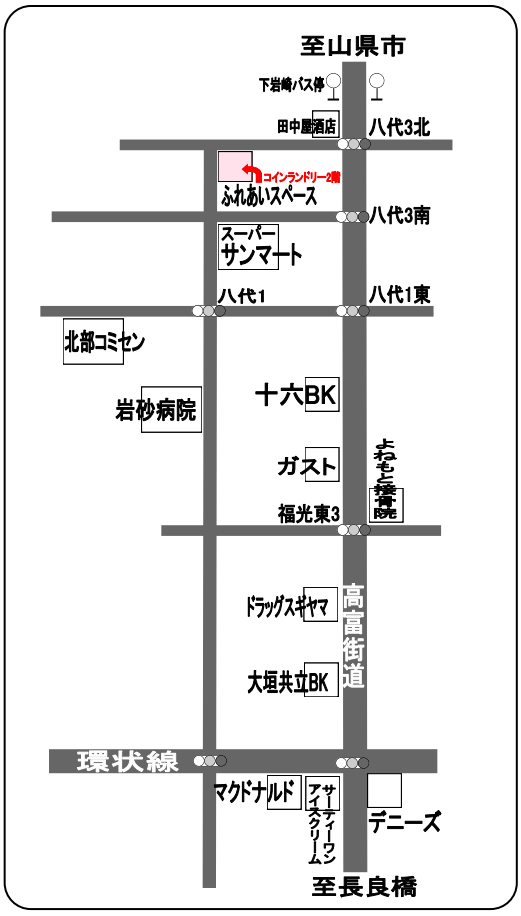
後発のバスが来るまで少しの散策をした。田舎の家に遊びに来たのだろう、まちに帰る息子たちの車を見送る年配夫婦の姿。久しぶりにおうたのであろうか、語り合う高齢女性たち。畑は高いフェンス、その上に4段の電線を張り囲んでいる。フェンスだけの畑はもう自然にかえっている。朽ちかけた家。早春の景色に、厳しい現実がのぞいていた。少し重たい気持ちになってバス停に戻る。保存会会長が走ってくる。「ありがとうございました」といいながら。会長さん、お礼を言うのは私たちだよ。根尾という尾根と谷が続く村に息づく能を新たに引き継がれた会長さん、ごくろうさまでした。ありがとうございます。バスの隣の席の人は、「去年もきたけどこれからも来るよ」と言われていた。私もそうしよう。来年はもっと多くの人を誘って！そうしようと。

会長さん、お元気でださいね。私たちはこの夜はうすずみ温泉に泊まって宴会だ。能郷のみなさんも宴会だったかな。ほんとうにありがとうございました。楽しかったです。

(佐藤尚子)

例会会場案内

例会への事前申し込みは不要です



2020年前半 哲学カフェ、第24期の予定

場所 岐阜市八代3丁目27-8「ふれあいスペース」
例会は19:00～21:00です。

第139回例会 1月9日（木）	「激動の世界、新年の展望を語りあう」（＝新年会も） ＊昨年に続いて、今年も激動する世界・日本、これにどう向き合うのか。 ＊平穏無事に行きそうもない中、飲食物を持ちより、真剣かつ楽しく語り合う場に。 終了しました
第140回例会 2月13日（木）	「100兆円を越える国家予算。収支とも大問題では？」 ＊今年の国家予算は超大型予算。税収入を甘く見積もり、またもや赤字国債増。 ＊支出でも大企業有利な政策目白押し。軍事費最高、国民生活はひっ迫。いいのか？ 終了しました
第141回例会 3月12日（木）	「近年相次ぐ「自然」災害、備えは大丈夫か？」 ＊近年、地震のみならず、台風による河川決壊、浸水、 延期します 避難相次ぐ。 ＊これは「自然災害」ではなく、「人災」ではないか。 対処するのか。
第142回例会 4月9日（木）	「大学入試はどうあってはならないのか？」 ＊来年度実施予定の「大学入試改革」は、文科省の不手際、批判続出でご破算に。 ＊大学入試のあり方を、あらためて根本から考えなければならないのではないか。
第143回例会 5月14日（木）	「急増するフリーランス、外国人労働者。どうなるの？」 ＊混迷続きの外国人労働者受け入れ問題にくわえて、新たに浮上した労働問題。 ＊「労働者」ではなく、個人自由契約のフリーランサー。その問題点を探る。
第144回例会 6月11日（木）	「あらためて家族のいまと、その行く末は？」 ＊「万引き家族」で示されたように、日本でも、家族・家族観はかなり多様化した。 ＊でも、いまだ「家族」主義に拘泥し、個々人の自立を阻むものになっていないか。
第145回例会 7月4日or12日	創立12周年記念行事（3月例会のテーマ（気候危機問題）をシンポジウムで!! 「近年相次ぐ「自然」災害、備えは大丈夫か？」 ＊近年、地震のみならず、台風による河川決壊、浸水、死傷者続出、避難相次ぐ。 ＊これは「自然災害」ではなく、「人災」ではないか。これにどう対処するのか。

哲学カフェの運営資金の協力 も、よろしくお願いします。 口座記号・口座番号 00810 1 142912
加入者名 哲学カフェ de ぎふ、千秋まちかど文庫
「哲学カフェ de ぎふ」ホームページ 毎回更新中 !! http://tetsugakucafegifu.jimdo.com/

わいわいがやがや アラカルト

★人類の歴史は戦争の歴史と言ってもよいのではなかろうか。戦争は自然環境を破壊し、人の心も破壊する。安倍政権になってから、防衛省予算が増え続き、5兆円を突破。日本の軍事国家化が進行している。日本は戦争の準備をしていると思わざるを得ない昨今である。

★最近の新聞でおよそ半世紀前の随筆で作家の獅子文六が、こんなことを書いていることを知った。「クラゲでもいいから、人間以上の知恵と力を持った生物が、どこかの星にいないものか。気配でもいい、襲ってきてほしい。そうすれば＜全人類の団結＞ということで空前の国際親和が生まれる」と。

★しかし、今危惧することは、異星人ではなく、「地球温暖化」という「敵」の来襲である。アメリカ西部やオーストラリアでの森林火災、破壊的なハリーケーンや巨大台風の来襲、更に南極や北極の氷河の崩壊など、「地球温暖化」とは無縁ではない。「地球温暖化の主要因」は二酸化炭素濃度の上昇である。地球環境破壊は、確実に進んでいる。

★さらに、原発事故による放射能汚染、最近の中国武漢発の新型コロナウイルスの蔓延など、すべてが地球規模（グローバリゼーション）で進行している。この地球上で、一国だけが、あるいは一部の特権階級だけが、地球温暖化から逃れ得ることは決してあり得ない。生きとし生けるものすべてが一蓮托生である。これまでの共生社会を持続させるためには、国際間で戦争をやっている場合ではない。

★人類共通の敵、「地球温暖化」と戦うための＜全人類の団結＞が必要であり、地球上に混沌がやってくる前に、今こそ日本国憲法「九条」の精神が、国際的・歴史的役割を果たす時はないのではなかろうか。

（島田幹夫）